

令和3(2021)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

【総括】

社会福祉法人神戸育成会は、「新型コロナウイルス感染症」の状況を踏まえ、感染症予防対策を講じながら、利用者・家族に安心して利用してもらえことや、働く職員も安心して働けることを念頭に事業経営しましたが、加算要件が厳しく加算を得ることが出来ず減額になりました。また、共生型利用者2名が退所し契約者数も減りました。一方で新規利用者は1名増員でした。

法人理念及び障害者総合支援法に基づき、制度の動向を踏まえ、利用者の福祉と社会的自立を支援するために事業を行います。3年目になる「共生型サービス」については、生活介護の利用者との共生、介護保険事業への移行、介護スキルの取得など課題が見えつつあるため、研修や実習などを通じてスタッフのスキルアップのために出来る範囲でオンラインなどの可能な範囲で研修参加をしました。

社会福祉法人として、社会福祉法人制度改革にもある、透明性・公平性・公益性を重視し、地域に必要とされる存在であることを目指し、運営を行いました。

<基本方針>

(事業所の経営)

中長期的に健全な経営が営めるように、収支を十分に検討していますが、エアコンなどの老朽化により度々補修が必要でした。収益が上がるように利用者を増やすために支援学校への訪問しない営業や実習の受け入れに努めました。

(組織体系の確立)

組織の基盤としてリーダーシップが求められるため、法人が求める人財としてリーダーシップがとれOJTができる人財の育成、スタッフ間でコミュニケーションを取り、チームワークを図り、連携して業務にあたるため、リーダーはリーダー研修を受講しました。

(拠点事業所の経営)

就労継続支援B型をみくら・住吉に、生活介護・通所介護事業「共生型」の拠点をみくらつついのみやに置き運営を行いました。

各拠点にはリーダーを配置していますが、リーダーの退職により一時的にリーダー不在な状況がありました。施設長がフォローに当たり事業所が健全に運営できるよう、また、チームワークが保てるように努めました。拠点ごとの事業計画を法人の事業計画とリンクして事業計画を立て、計画に基づいて運営を行いました。年度途中にはみくら就Bとつついのみやに新たにリーダーを配置しました。

(利用者の支援)

課題がある利用者への支援について対応していく、専門性の向上が必要なため、リモート研修会の参加、一度に全員ではなく少人数で分散したリモート研修会を行い利用者支援の向上を行いました。

個別支援計画を立てるため、利用者の状態の理解を深めるためにアセスメントを十分に行い、意思決定支援、合理的配慮(障害者差別解消法・高齢者虐待防止法)、地域共生社会、障害者の権利擁護に関する事項を意識した支援が行えるように十分とは言えませんが研修会に参加しました。

(新規利用者の獲得)

支援学校や相談事業所などへの「訪問しない営業」の工夫、在宅者などの見学・体験利用できる範囲で受け入れました。

(人財確保・育成)

スタッフの知識の向上・スキルアップのためのOJT、OFJTをリモート研修会などに参加し出来る範囲で取り組みました。

パート職員・嘱託職員の給与体系を見直すため年1回の昇給できる俸給表を作成しました。

<具体的な取り組み>

計画に掲げたことについて、工程表を作成し可能な限り目標を数値化し分かりやすく評価しやすいように設定して計画の遂行に努めました。

拠点事業の運営についてもマネジメントが重要になるため拠点と法人が協力して運営を行いました。

令和3(2021)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

【工程表】

令和3年度 法人本部事業報告

達成度 ×0～25%、△26～50%、○51～75%、◎76～100%
 ※職員・パートを「スタッフ」、サービス管理責任者を「サビ管」で表記

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
法人の経営	法人の健全な経営①	拠点ごと・部門の収支が分かりやすい決算書を作成する	△	分かりやすい決算書が出来ていない	経費の算出が複雑	拠点ごと・部門ごとの経費の算出を決め、早期に実施する
	法人の健全な経営②	半期ごとの決算書を作成する	△	分かりやすい半期ごとの決算書が出来ていない	拠点及び部門が多すぎる	拠点ごと・部門ごとの経費の算出を決め、早期に実施する
	法人の健全な経営③	決算書を基に経営戦略を立て収支が上向くようにする	×	収支差額の幅が小さくなったものの経営戦略を立てるまでに及ばなかった	エアコンの大規模修繕を見据え、資金計画が必要	大規模修繕に備え、資金計画を立てる
	★法人の健全な経営④	魅力ある法人・事業所になるために、『うり』を作る	△	ある程度できている事業所と、全くできていない事業所があったため	事業所で認識のバラつきがある	計画設定時に再確認する
	★法人の健全な経営⑤	新規利用者を獲得する	○	住吉に1名新規利用者があった	共生型の利用者2名が退所した	新規利用者の獲得と退所利用者が限りなくなるように、サービス向上する
	★法人の健全な経営⑥	コロナ禍の感染予防対策感染予防対策を講じ、利用者・家族に安心して利用してもらうくマスク着用・検温・アルコール消毒・換気>①活動・作業中②食事中③その他	○	事業所ごとに特性があり異なる部分もあるが、①～③において感染予防に努めた	新種の変異株への対応や心の緩み	感染予防対策を継続し、情報収集して対応していく定期的に予防内容の確認をする

令和3(2021)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
意思決定支援	意思決定支援の理解	意思決定支援を理解し支援に活かす	△	モニタリング会議では意思の尊重を意識付出来るように促したが、研修への参加や勉強会が出来なかった	相当の研修がない場合の取り入れ方	職場内研修でテキストなどを読んでレポート提出する
合理的配慮	合理的配慮の理解	合理的配慮を理解し支援に活かす	△			
★個別支援計画	①アセスメントの充実 ②フェイスシートの更新 ③モニタリング会議の実施	2～3月のモニタリングでアセスメントを取る	△	②行っても書式への反映・整理が出来ていないケースがあった	①に関しても十分とは言えない	アセスメントの聴き取り方についての講習会などを計画する
★サービスの向上	提供しているサービスの見直し	サービスが向上することを一つを計画に掲げる	○	事業により差はあるが、認識を持って取り組んでいた	利用者・家族などがどのように感じているのか不明	満足度調査などの実施
PR	コロナの影響が続くことを想定した営業活動の実施	コロナウィルス感染症のできる営業活動や方法を検討して実行する 引き続き体験利用や見学を受け、利用に繋がるように対応していく	◎	4月に芦屋特別支援学校・青陽灘高等支援学校・友生支援学校にパンフレットを送付し、青陽灘高等支援学校から2名の現場実習を受けた 10/11にCS神戸ワラビーの「地域のおしごと見聞会」に説明事業者として講座に立ち、1/12にも講座「ハタラク」にて法人のPRを行った	支援学校への継続したPRと営業活動CS神戸ワラビーなどからの依頼へのPR活動の参画	支援学校からの実習・見学などの依頼やCS神戸ワラビーなどからの依頼に対し可能な限り引き受ける

令和3(2021)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
ホームページリーフレット	HPのトピックスに拠点ごとのPRを掲載	年1回程度は更新する	◎	全事業所が更新できた	継続した取り組み	ホームページトピックスを拠点ごとに年1回以上は更新する
スキルアップ・専門性の向上①	コロナの影響を考えた参加方法が必要	外部研修(オンライン研修)に支援員は年1回は参加する	○	十分とは言えないが参加できた	インターネット環境が整っていない(パソコンがない事業所がある・台数に限りがある)	パソコンを増設せずに行える方法として、テキストを読むなどアナログな手法を優先する
スキルアップ・専門性の向上②	【全体会議】 コロナ禍を踏まえた開催・参加の仕方	できる範囲内で開催する	×	開催できていない		
人財確保	ボランティアの受け入れと人財確保について見直す必要がある	法人の健全な経営④と同様、人財確保のためパート支援員の賞与など給与規定を見直す	○	嘱託職員とパート職員の給与表を昇給するものに見直した	最低賃金が928円になり、今後も引き上げられることを想定した対策	最低賃金の動向を踏まえて給与表を見直す
★チームワーク	スタッフ間のコミュニケーションが取れているのか、と家族から不安の声がある	事業所ごとに目標を立てる	○	意識して取り組み、その実感がある	家族などはどのように感じているのかが不明	機会を見つけ確認してみる
★行事	コロナ禍を踏まえた、感染予防対策を講じての実施	コロナの感染予防対策を講じて実施出来る行事は行う	×	感染予防対策は講じていても、行事事態行えなかった	コロナの状況に応じた行事の実施	コロナ禍で未定ではあるが、代替案などを設定する
権利擁護①	苦情解決・虐待防止委員会	次年度もコロナ禍で実施が難しいが、感染予防対策を行い、年1回でも委員会を実施する	○	委員長を交えての検討会を実施出来た	今後のコロナの感染状況	感染予防対策を徹底して実施

令和3(2021)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
権利擁護②	成年後見制度・虐待防止法などの障害者の権利擁護に関する理解障がい者虐待について取り組めていない	成年後見人制度・虐待防止法について、障がい者・高齢者共に学ぶため、感染予防対策を行い、年1回でも研修会を実施する	○	県知協主催の虐待防止研修(リモート)に全支援員が参加できた	継続して年1回は実施する	参加可能な研修を早期に見つける
権利擁護③	次年度もコロナ禍で実施が難しい	高齢者虐待防止について、年1回は研修会を行う	△	障がい者虐待防止の研修会には参加できたが、高齢者虐待防止はできなかった	全体ではなく、共生型に関わる職員だけでも実施する	参加可能な研修を早期に見つける
★労働	休憩が充分にとれていない	事業所ごとに目標を立てる	△	工夫は見られるが、多くの事業所が十分に休憩が取れているとは感じていない	事業所ごとの課題への対応	事業所ごとで課題に対する取り組みに挑戦する
収益事業	法人の経営状況が厳しい中、育成会会館の経年劣化による補修費が必要になってきている	①エアコン取替、②非常灯取替、③EV、自動ドアの消耗部品の交換など	△	①に関しては適宜補修を行った ②③については必要はあるものの保留とした	①に関しては可能であれば大規模修繕が必要 ②③についても修繕が必要になる予測	優先順位としては①エアコンの大規模修繕であり、項目「法人の経営③」同様に資金計画を立てる
嘱託医健康相談 健康管理	嘱託医のさらなる活用	次年度もコロナ禍で通常通りにはできないことが見込まれる	○	コロナ禍において可能な限り行えた	コロナの状況を踏まえて仕組みを維持していく	場合によってはリモートでの実施も行う
書類	継続した棚卸し	3年に一度など期間を設定する	△	未実施の為	処分する書類が少ない為	3年に一度ではなく、ある程度処分する書類が増えてから実施

令和3(2021)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
地域貢献 地域交流	充分できていない	コロナが落ち着くまでは様子を見る	×	全くできていない	コロナの状況を踏まえ出来る範囲での連携を取る	地域課の情報などに注意しておく
★家族	家族と法人とのコミュニケーション	コロナの影響を想定し感染予防対策を講じたコミュニケーションの図り方を構築する	△	事業によってばらつきはあるが、ある程度は行っていた	次年度もコロナの影響があることを鑑みる必要がある	引き続き感染予防対策を講じたコミュニケーションを取る
健康管理	2020年度実施できなかった健康診断を2021年度は1日で実施する	感染予防対策を講じ実施する	△	利用者の健康診断はできなかった 職員の健康診断は実施した	利用者の健康診断の実施 委託事業者の選定 労働安全衛生法による職員の健康診断結果についての 意思意見聴取の実施	健康診断実施事業者の見積もりを取る 神戸市地域保健センターへ職員の健康診断結果を医師の意見聴取を受ける
避難訓練	テナント全体できていない	年2回は実施する	◎	7/29・10/28・1/17計3回実施した	継続実施	年間計画を立て実施する

令和3(2021)年度 みくら生活介護事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
★法人の健全な経営 ④	★法人の健全な経営④	魅力ある法人、事業所になるために、『ウリ』を作る	×	希望者がなかった。	「ウリ」となるものを考える。	支援学校と連携を図り、見学、体験等の具体的な期間の設定を行う。
★法人の健全な経営 ⑤	★法人の健全な経営⑤	新規利用者を獲得する	×	希望者がなかった。	利用希望者がいない。	受け入れ時にアピールしたい内容のスケジュールを計画する。
★法人の健全な経営 ⑥	★法人の経営⑥	コロナ禍の感染予防対策感染予防対策を講じ、利用者・家族に安心して利用してもらうく マスク着用・検温・アルコール消毒・換気>① 活動・作業中②食事中③その他	○	コロナ感染者が出ずに 過ごして頂けた。	人数により利用者間が 近くなる事がある。	感染予防を継続しつつ、引き続き、換気を時間毎に行い、密にならない様にスペースに気を配る。
★個別支援計画	①アセスメントの充実 ②フェイスシートの更新 ③モニタリング会議の実施	ご家族の意向があれば、利用者本人の意見を汲み取る為利用者も同席してもらう	△	電話面談後フェースシートを、更新出来た。	コロナ次第で、面談が出来れば、利用者のご家族両者の意思を汲み取れるようにする。	ご家族と連絡ノート等で、密に情報交換を行い、利用者の意思、ご家族の希望に沿った支援を行う。
★サービスの向上	提供しているサービスの見直し	コミュニケーション、体力増強の活性化を目指す	△	コロナ禍の為、外出、他事業所との交流が出来なかった。体力作りは室内で体操ダンスを提供出来た。	他事業所との交流を行いたい。体力作りも引き続き行う、	全ての利用者が、参加出来る様な運動・体力作りを提供していく。
★ホームページリーフレット	HPのトピックスに拠点ごとのPRを掲載	年1回程度は更新する	△	ホームページ用の写真は機会ある度に撮っているが、更新されていない。	ご家族がチェックしていると、伺っている。更新間隔を短くする。	更新間隔を短くする。
★チームワーク	スタッフ間の情報共有	全スタッフがすべての利用者の事を把握できるように努める	◎	スタッフ間の情報共有が出来ていた。	打ち合わせの時間が取れない。	その場にはいないスタッフには、日誌、ケース、メモ書き等で周知する。

令和3(2021)年度 みくら生活介護事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
★行事	コロナ禍を踏まえた、感染予防対策を講じての実施	コロナの感染予防対策を講じて実施出来る行事は行う	△	全体行事は中止になったが、生介内で季節の行事を行えた。	コロナ状況を見守る。	状況を見ながら、各事業所毎に行っていく。
★労働	休憩が十分にとれていない	休憩が充分に取れる様にする	△	スタッフの後追い、利用者の気分の変調に対応する事が、頻繁にある為、充分に取れない事がある。	状況をよくみて、充分に取れる様にしている。	タイミングを計る。
★家族	家族と法人とのコミュニケーション	コロナの影響を想定し感染予防対策を講じたコミュニケーションの回り方を構築する	△	連絡帳、電話、送迎時に家族へ連絡、報告は行っているが、ご家族からの反応が十分にわからないご家族もあり、全員ではない。	全員のご家族と連絡帳でコミュニケーションが取れていない。	コロナ状況を見ながら、引き続き面談以外の全員のご家族とのコミュニケーションを続けていく。
健康	高齢利用者への支援 身体機能の維持	体力、身体機能の維持増進	○	外出が出来ず、室内での運動を提供出来た。	室内でもしっかりと運動を行い、体力身体機能を維持。	室内で行える体操、ダンス、ストレッチ等を考える。
活動	プログラム化と準備	月間プログラムを立てる	○	外部活動は中止だったが、内部のみでのプログラムを提供出来た。	コロナ状況を見ながら内部のみで行える活動を考えていく	新たな活動を考えていく。
季節の行事	季節感	季節感を味わってもらう	○	外出は出来なかったが、創作や行事を内部のみで行えた。	全体での外部活動や、行事の再開を待つ。	季節の創作、行事に季節感を取り入れ、利用者に取り組んで頂く。

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
法人の経営	法人の健全な経営④	魅力ある法人・事業所になるために、『うり』を作る	○	清掃活動や歩行時などに、近隣への挨拶は継続できた。朝礼・終礼当番を継続的に繰り返すことにより、発語の困難な利用者と耳の不自由な利用者が当番ができるようになった。また時系列の理解できない利用者が、○月○日○曜日と言えるようになって、出席人数を数えることもできるようになった。	利用者が自分の思いを伝える。	個々の利用者に応じた支援をする。
法人の経営	法人の健全な経営⑤	新規利用者を獲得する	○	支援学校の実習生の受け入れが、利用者獲得につながった。	さらに利用者を獲得する。	実習や見学を快く受け入れる。
法人の経営	法人の健全な経営⑥	コロナ禍の感染予防対策感染予防対策を講じ、利用者・家族に安心して利用してもらう<マスク着用・検温・アルコール消毒・換気>①活動・作業中②食事中③その他	○	コロナ禍の感染予防対策を講じている。	継続していく。	継続していく。
個別支援計画	アセスメントの充実 フェイスシートの更新 モニタリング会議の実施	利用者本人の意思を汲み取るため、利用者も同席してもらう 新しく正確なフェイスシートを作成する	○	今年度、新しいフェイスシートを作成している。	コロナの影響で対面での面談を回避する方向。	個別支援計画など書面を基に電話で確認を行う。
サービスの向上	提供しているサービスの見直し	サービスが向上することを一つを計画に掲げる	○	日中活動の中に衛生面のマナーを盛り込んでいる。	強制的にならないよう工夫しておこなう。	利用者の特性を尊重して支援する。
ホームページ リーフレット	HPのトピックスに拠点ごとのPRを掲載	年1回程度は更新する	○	年1回は更新している。	継続していく。	継続していく。

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
チームワーク	スタッフ間のコミュニケーションが取れているのか、と家族から不安の声がある	スタッフ間でコミュニケーションをとり、家族会などからコミュニケーションが取れるようになったと評価される	◎	利用者の状況を共有しているので、ご家族から問い合わせがあればどの支援員でも対応できる。連絡帳で、成長の発見や行動の理解について伝えている。	継続していく。	継続していく。
行事(クリスマス)	予算化・振り返り・評価できていない	予算化・振り返り・評価をする	×	コロナの感染予防対策として未実施だった。	コロナの影響でできない可能性がある。	コロナの状況・感染予防対策を再確認し検討していく。
労働	休憩が充分にとれていない	休憩が充分に取れるようにする	△	休憩中に業務を行ってしまう。昼休みに歯磨き・点眼・トイレ介助等の支援が増え、休憩がとりにくくなってきた。	トイレと歯磨きの介助が同時になる。休憩中に業務は行わない。	できる限り、休憩ではない職員で対応していく。歯磨きの時間をずらす。昼休み中は、トイレの介助を限定する。
家族	家族と法人とのコミュニケーション	コロナの影響を想定し感染予防対策を講じたコミュニケーションの回り方を構築する	◎	支援員が、利用者の状況(成長の発見や行動の理解)を共有しているので、ご家族から問い合わせがあれば、どの支援員でも対応できている。	コロナ以前のようににはできないので、コロナ禍を想定したコミュニケーションの取り方を継続していく。	継続していく。
日中活動	体力作り	毎日、午前9時半～10時、11時～11時半、午後14時半～15時の間で、10分程度体を動かす	○	概ね計画通りできた。	コロナの影響でみくら生活介護との交流が難しい。	コロナの状況・感染予防対策を再確認し検討していく。
地域交流	災害緊急事態に支援して頂く仕組みを作る	自治会等の繋がりを普段から、大切にしている	△	清掃活動や歩行運動時などに近隣への挨拶はできているが、自治会長へご挨拶に伺うことができてない。	自治会等の繋がりを普段から大切にしている。	自治会長へのご挨拶に伺う予定。施設長に同行して頂く。

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
法人の経営④	★法人の健全な経営④	魅力ある法人・事業所になるために、『うり』を作る	○	今まで支援員がしていた作業を利用者に教えて出来るようになり作業の幅も広がり、能力にあった作業の提供が出来た。	能力が高い利用者に作業が偏る所がある。利用者のペースを配慮しつつ、作業を分担出来る様に色々な利用者にも幅広く作業を覚えてもらう。	失敗を恐れず新しい作業にチャレンジしてもらいたいので、業者の方に理解して頂き資材の予備を多めに貰う。
法人の経営⑤	★法人の健全な経営⑤	新規利用者を獲得する	×	新規利用者を獲得出来なかった。	ホームページの更新。	作業だけではなく行事ごとの楽しい雰囲気の写真などもホームページに掲載していきたい。
法人の経営⑥	★法人の健全な経営⑥	コロナ禍の感染予防対策を講じ、利用者・家族に安心して利用してもらう(マスク着用・検温・アルコール消毒・喚起) ①活動・作業中②食事中③その他	△	検温・消毒・換気・対角での座席は出来た。お弁当のおかずの交換をしていたりハグなどソーシャルディスタンスの徹底が出来なかった。	利用者がハグをしてきても傷つくかと思いき、断り切れぬ。利用者との距離感を見直していく。	利用者にはコロナの感染症対策として密着してはいけない事を再認識してもらう。
★個別支援計画	アセスメントの充実 フェイスシートの更新 モニタリング会議の実施	2~3月のモニタリングでアセスメントを取る	○	アセスメント、モニタリング会議は出来ているがフェイスシートの更新が出来ていない。	フェイスシートの更新をする。	リーダーがしなくてはならない事をしっかりと把握する。
★サービスの向上	提供しているサービスの見直し	魅力ある事業所を目指し、新しいことにチャレンジする (例)生活介護での生産活動、就Bでのカリキュラム化など	◎	今まで取り組んだ事のない作業にチャレンジしたり、利用者全員に季節の絵を描いてもらうなど新しい試みが出来た。	より多くの他利用者が新しい作業にチャレンジしたり、全員が楽しく参加出来る事を模索する。	能力差、ペース、タイプなどを支援員がよく理解し、各利用者それぞれに寄り添ったスタイルで作業の支援をしていく。
★ホームページ リーフレット	HPのトピックスに拠点ごとのPRを掲載	年1回程度は更新する	△	期限を過ぎても更新出来ず、施設長に更新してもらった。	リーダーがホームページを作成し、更新していく。	ホームページに添付出来る様に日頃から写真を撮り保存しておく。
★チームワーク	職員の入れ替わりがありチームワークを高めにくい	チームワークを高める	△	9月迄はチームワークが出来ていなかった。 10月から新リーダー、新しい支援員が入りチームワークを高めていこうとしている。	利用者の様子や業務報告をはじめ、より良い支援員になれる様に意見交換を行う。	小さな事でも話しやすい環境を作る。声をかけあっていく。
★行事	コロナ禍を踏まえた、感染予防対策を講じて実施	コロナの感染予防対策を講じて実施出来る行事を行う	◎	感染予防対策を取りつつ、ささやかではあるが短冊を作ったりスイカを食べたり季節に沿った行事が出来た。	利用者に季節の絵を描いてもらったり、飾り付けを手伝ってもらうなど全員が参加して楽しめる様に工夫をしていく。入所式が出来ると出来ない場合の対応を考える。	絵に興味がない利用者にも支援員と一緒に描くなど声をかけ促してみる。「手伝ってくれてありがとう。」「助かった。頼りになる。」など利用者が自主的に手伝いをしたくなる流れを作る。入所式が出来ない場合でも心に残る贈呈品などを支援員内で意見を交換する。

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
★労働	休憩が充分にとれていない	休憩をとる	◎	充分にとれている。	決められた休憩時間をしっかり把握し守る。 トイレや喫煙など少しでも場を離れる時も他の支援員に声をかける。	昼休憩が一体何分あるのか？昼食を含めての休憩時間なのか？支援員それぞれの認識があやふやなので上司に再確認する。
★家族	家族と法人とのコミュニケーション	コロナの影響を想定し感染予防対策を講じたコミュニケーションの図り方を構築する	○	電話や連絡帳を使い、ご家族の方とコミュニケーションが取れた。	少しでも頑張れた事や日常の事を連絡帳に記載していく。	利用者が何をしていたかよく観察する。
支援員のスキルアップ	支援員が作業内容の理解が足りない	支援員が同じ対応が出来るようになる	△	支援員自身に余裕がなく慌ただしいので、利用者の声や行動を把握しきれていない。	作業優先ではなく利用者の支援をする事が仕事。支援員という意識と理解の認識。	利用者全員を観察し特徴や行動パターンなどを把握する。

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
法人の経営	法人の健全な経営④	魅力ある法人・事業所になるために、『うり』を作る	◎	平均以上の工賃支給・施設外事業所の為、即就労実践になっている	魅力ある法人・事業所になるために「うり」を作る	コロナ禍の中、学校訪問などが出来ない為ホームページの更新を行い事業所の良さ(工賃アップ・環境の良さを伝える)工賃アップに繋がるように作業の質を高める(誤配・紛失・破損などを減らす)
法人の経営	法人の健全な経営⑤	新規利用者を獲得する	◎	青陽灘高等支援学校より実習依頼があり実習を受け入れた結果、来年度利用者獲得に繋がられた	定員枠を超えたため新規獲得の見送る	募集枠がないことを支援学校等に伝える 退所者が出てもすぐに希望したい利用者が確保できるような事業所であるために、環境・支援内容・職員のスキルアップに努める
法人の経営	法人の健全な経営⑥	コロナ禍の感染予防対策感染予防対策を講じ、利用者・家族に安心して利用してもらう<マスク着用・検温・アルコール消毒・換気>①活動・作業中②食事中③その他	◎	コロナ感染対応で直接の面談は行えなかったが電話にて面談を行った	コロナ禍の感染予防対策感染予防対策を講じ、利用者・家族に安心して利用してもらう<マスク着用・検温・アルコール消毒・換気>①活動・作業中②食事中③その他	①通所後・生産活動中のマスクの着用・検温・アルコール消毒・換気の励行 ②手洗い・テーブルの消毒・間隔を開ける食事に對面にならないように座席の工夫を行う ③トイレ・エレベーター・ドアのノブの消毒
個別支援計画	アセスメント・フェイスシートの更新・モニタリング会議の実施	2~3月のモニタリングでアセスメントを取る	◎	コロナ感染対応で直接の面談は行えなかったが電話にて面談を行った	写真・絵カードで理解できるよう合理的配慮を行う	写真を貼る・絵カードの作成
けん玉教室	コロナ禍の影響を受ける	けん玉に触れる機会を作る	×	コロナ対応により老人ホームより交流を禁止された。また一人体制では作業の事も取り時間が取りにくかった	コロナ感染対応の中、講師の先生の立ち入りが難しく、合同練習が出来ない	コロナ感染対応の中で合同では出来ない為各事業所にて練習をする。講師の件もあり、新しく講師を見つけるか別の行事に変更するか取りやめる

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
ホームページリーフレット	HPのトピックスにPRを掲載	年に1回程度は更新する	◎	HPのトピックスにPRを掲載できた	引き続き年1回は更新を行う	コロナの影響もあり難しいが最近の取り組みを情報提供し担当月に更新する
チームワーク	コロナ禍の為三事業所の共通理解を図る	連絡を密にする	△	コロナ感染対応の中、FAXや電話で共通理解をはかったが交流が出来ない時期があった	コロナ感染の対応の中、密に連絡を取り合う	コロナ感染の収縮・電話・FAXで密に連絡を取る
行事	コロナ禍を踏まえた感染予防対策を講じての実施	コロナ禍感染予防対策を講じて実施出来る行事は行う	×	コロナ感染対応の為中止	コロナ感染の収縮	コロナ感染状況をみて行う
労働	休息が充分に取れていない	休息が取れる体制にする	△	昼対応職員に条件が有る為全て埋める事は出来なかった	まだ少し埋まっていない為埋まるシフトにする	シフト対応の出来る方の獲得 シフトの工夫を行い可能な限り一人にならないように組む
家族	家族とのコミュニケーションを取る	コロナの影響を想定し感染予防策を講じたコミュニケーションの回り方を構築する	△	コロナ禍で交流が出来ず電話、ノート連絡での対応となった	コロナの影響を想定し感染予防策を講じたコミュニケーションの回り方を構築する	電話での連絡・連絡ノートの活用などの回数を増やしコミュニケーションを図る